

海辺の自然体験活動がライフスキル獲得に及ぼす影響

Effect on acquiring Life Skills through ocean nature experiences

千足 耕一¹⁾, 蓬郷 尚代²⁾, 松本 秀夫³⁾

1) 東京海洋大学学術研究院 2) 東京海洋大学博士研究員 3) 東海大学

キーワード：ライフスキル, 体験

海辺の自然体験活動の効果については、継続的に海の活動に取り組む者を対象とした縦断的な研究、著名な実践者及び指導者を対象とした質的な研究や、先駆者たちの重要視した直接的な体験の意味を問う研究を実施していく必要性についても言及されている。WHO(1994)は社会心理的能力としてのライフスキル（以下LSと略記）に関する教育を促進する必要性を述べている。日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義されるLS獲得への影響について、太子(2014)は乗船実習に参加した実習生を対象として、日常生活スキル尺度大学生版(島本・石井, 2006)を用いた調査を実施し、対人スキルと個人的スキルが有意に向上したことを報告しているが、実行動との関連は不明であるという課題を示した。野外教育とりわけ海辺の自然体験や海洋教育の分野ではLS獲得に影響を及ぼす体験について十分に検討されていない。本研究では、海辺の自然体験活動によるLS獲得について、先駆的取り組みを行ってきた者および海辺の自然体験活動に参加した者を対象に半構造化された聞き取り調査および自由記述による資料の収集を実施した。

ライフスキルの定義 (WHO編：ライフスキル教育プログラム, 1994)

- 意志決定
- 問題解決
- 創造的思考
- 批判的思考
- 効果的コミュニケーション
- 対人関係スキル
- 自己意識
- 共感性
- 情動への対処
- ストレスへの対処

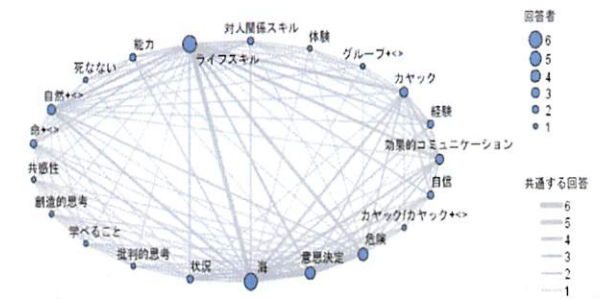
意志決定はこういう仕事(カヤックガイド)にすごく関連している。問題解決については、例えば厳しい状況で海に出ていると、その状況をどのようにして脱出するのかというようなところと関連している。カヤックツアーの催行について現場で責任を持って決めているので、意志決定というようなことにつながる。ツアーができない場合にどうするのかというところで、問題解決にもつながってくる。ライフスキルへの効果が高いのは無人島にカヤックを使っていくキャンプだと思う。持っていきける荷物も限られているし、漕ぎ切ることによる自信、危険な目に合うことによる謙虚さを獲得することができる。それから、焚き火が良い。無人島という空間で焚き火を見ながらストレスを放ちコミュニケーションをとるのでしよう。(シーカヤックガイド歴17年)

ライフスキル(能力)の獲得には個人差があると思う。海に対して意識の高い人はこういった課題に対する解決策を持っていて、能力が高いと思う。いつまでも連れて行かれるタイプの人というのは意思決定や問題解決能力も殆どない。私が大事だと思うのは意識だと思う。何に対しても「思い」とか「追究しよう」とか「協調」とか「輪になろう」というような気持ちがないと、大きな課題を解決するとかというのは難しい。ライフスキル獲得というのは、自ら海に出ているというような自立型のスタイルに必要な課題と思う。(カヤックガイド30年)

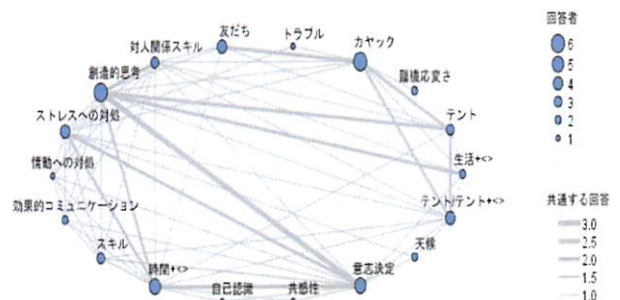
スノーケリングは個人の活動であるが、安全管理の方法としてパディシステムを使う。そうすると2人で活動することが大切だということについて経験を重ねると理解される。お互いを助け合ったり見守ったりするという意識は身につけてくる。スノーケリングをやる意味については、子供たちが、目の前で生きている生き物に驚きを持つこと、グループやパディで行動することによって共感が生まれるといった要素が陸上の活動よりも大きいことである。海の中では、想像していなかった海中の世界が見えるところのインパクトが大きい。一番大事にしているのは「驚き」であり、子供たちに達成感や自然に対する興味や楽しさがどんどん広がってくる。水に対する不安感から楽しみに変わるといった感情の変化が陸上の活動よりも短期間で見える。スノーケリングの活動と一緒に仲間と生活を共有することでのコミュニケーションを助長する効果もある。(海洋自然体験指導歴40年)

リーダー(指導者)的な存在になる人はライフスキルの要素を網羅していると思う。例えば、海が荒れているときには、死なないために、自分がけがをしないために、問題解決に影響が出る可能性がある。パディを組んだ時に対人関係スキルに影響が出る可能性がある。ただし、参加者の活動への臨み方や意識によっても影響は変わる。何かを学びたいと思って参加する人と、ついてくるだけの人では違う。陸上と海が違うところについて、自然環境の中でも海というところは1秒とか時間がずれることによって海が変化するという、それが自分の生命につながってくる。危機感とか、心構えが必要となる。このような中で、水中の計画を立てさせると、陸上と比べて短い時間で能力を養える可能性があるのではないかと、失敗が許されないと関連している。自分の命にかかっているというような活動レベルだと教育的効果は高い。教えるだけではなくて、学ばせる、自分たちで学んでいく、自分たちで計画を立てさせるのもその方法である。(スクーバダイビング指導歴23年)

【海洋指導者10名を対象としたインタビューのテキストマイニングによる分析結果】



【実習参加者による自由記述のテキストマイニングによる分析結果】



【まとめ】 調査の結果から、海辺の自然体験では、海が危険であること、自然に対応すること、自分で判断する必要があること、そのときあるものを使って工夫すること、目標を達成すること、必然的なコミュニケーションがあることなどの要素がライフスキルの向上に貢献する可能性があることが示唆された。

附記：本研究はJSPS科学研究費15K01516の助成を受けたものです。



Contact: chiashi@chiashi.jp 2017.6.16-18

日本野外教育学会 第20回大会, 国立オリンピック記念青少年総合センター

海辺の自然体験活動がライフスキル獲得に及ぼす影響

Effect on acquiring Life Skills through ocean nature experiences

千足耕一（東京海洋大学） 蓬郷尚代（東京海洋大学博士研究員） 松本秀夫（東海大学）

キーワード：ライフスキル、体験

1 目的及び方法

海辺の自然体験活動の効果については、海辺の自然体験活動および海洋教育に参加することによる、生きる力、自己概念、自己効力感、EQ、メンタルヘルス、海に対するイメージ、健康・体力、海洋リテラシー、環境に対する意識等の変容についての研究成果を認めることができる。しかしながら、継続的に海の活動に取り組む者を対象とした縦断的な研究、著名な実践者及び指導者を対象とした質的な研究や、先駆者たちの重要視した直接的な体験の意味を問う研究を実施していく必要性についても言及されている。

野外教育の分野では、1996年の中央教育審議会答申に示された「生きる力」に着目して、橘ら（2003）が開発したIKR評定用紙を用いた調査研究が数多く重ねられてきている。同時代にWHO（1994）は社会心理的能力としてのライフスキル（以下LSと略記）に関する教育を促進する必要性を述べている。LSの要素は「意志決定」「問題解決」「創造的思考」「批判的思考」「効果的コミュニケーション」「対人関係スキル」「自己意識」「共感性」「情動への対処」「ストレスへの対処」があると述べられている（WHO編：ライフスキル教育プログラム，1994）。「日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処

するために必要な能力」と定義されるLS獲得への影響について、太子（2014）は乗船実習に参加した実習生を対象として、日常生活スキル尺度大学生版（島本・石井，2006）を用いた調査を実施し、対人スキルと個人的スキルが有意に向上したことを報告しているが、実行動との関連は不明であるという課題を示した。野外教育とりわけ海辺の自然体験や海洋教育の分野ではLS獲得に影響を及ぼす体験について十分に検討されていない。

本研究では、海辺の自然体験活動によるLS獲得について、先駆的取り組みを行ってきた者および海辺の自然体験活動に参加した者を対象に聞き取り調査を実施した。

2 結果

聞き取り調査の結果から、海辺の自然体験では、海が危険であること、自然に対応すること、自分で判断する必要があること、そのときあるものを使って工夫すること、目標を達成すること、必然的なコミュニケーションがあることなどの要素がライフスキルの向上に貢献する可能性があることが示唆された。

附記：本研究はJSPS科学研究費15K01516の助成を受けたものです。



日本野外教育学会 第20回記念大会

プログラム・研究発表抄録集



2017年6月16日（金）～18日（日）

於：国立オリンピック記念青少年総合センター